

すぐり けいこく 巣栗渓谷

美ヶ原高原東山麓にある巣栗渓谷は、真夏でも冷涼な風が吹く景勝地です。

長い年月をかけ削り取られた岩盤、その岩盤に根を張る樹木、周囲の色を鮮やかに映し出す清流など、四季を通じて鮮やかな色彩、姿を魅せてくれます。

特に紅葉の季節は見どころで、様々な葉色と、目を上げれば、秋の青く澄み渡る空と、峰々の金色に輝くカラマツは絶景といえます。

冬には、葉を落とした樹木の下で岩肌に雪が張り付き、まるで水墨画を見るようです。

さあ、散策してみましょう!



お仙ヶ淵の民話

むかしむかし、武石の村にどこからともなく、三人の姉弟がやって来て住みつくようになった。姉をお仙といい、上の弟を庄兵衛、下の弟を金次郎といった。

それまで平和な山里であったが、毎晩のようにうさぎやにわとりなどの家畜が盗まれるようになった。盗まれた後には、きまって大蛇のものと思われる蛇のうろこが落ちていた。

村の人たちは、皆恐ろしがっていたが、注意してみると、犯人はどうもこの三人の姉弟のしわざで、大蛇の化身であることが分かった。

そこで村の人たちは、ひそかに大蛇を退治しようと相談したが、殺してから大きなたたりがあつてはなおさら困るので、三人を神様に祭って封じることにした。

いわなやかえるがたくさんいて、それをとて食べられるような所ということで、姉のお仙を今のお仙ヶ淵に、弟の庄兵衛を築地原のしうぶ池に、金次郎を権現の金次郎池に祭り、一年に1回ずつお祭りをすることにした。それからは、うさぎやにわとりが盗まれることはなくなった。

何年か後に、大かんばつがやってきて、飲み水にも困った時があった。そこで村の人たちは大蛇をまつたお仙ヶ淵へいって願をかけた。すると空がにわかに曇り、天地もさけるような雷鳴と共に、大雨が降ってきた。それ以来お仙ヶ淵は雨ごいの神様として、村の人々に親しまれている。



【武石刊行会（1989）「武石村史」から抜粋】



四季と花木

春の芽吹きから、夏の深緑、秋は色鮮やかな紅葉に感動を覚えます。岩肌と清流、葉が織りなす情景をお楽しみください。

代表的な樹木は、ヤマアジサイ・レンゲツツジといった花々に加え、カラマツ・カエデなど、四季を通した変化のある色彩が見どころです。



たつがさわ 竜ヶ沢ダム

透明な水面に映る山の木々の色彩の変化が美しく、特に秋の紅葉は、ダム湖の水面に映し出されて圧巻です。また、霧が巻く湖面も神秘的に感じられます。秋から初冬にはカモやオシドリなど様々な鳥が羽を休めに来ます。



生息する生き物

野ウサギ・リスや、アカゲラ・シジュウカラ、イワナ・ヤマメ、さらに昆蟲類も多く生息しています。動物の足跡から何の動物かを観察するのもおもしろいでしょう。特に冬場は分かりやすいのでおススメです。モモンガ・ヤマネなども運が良ければ見られます。



お仙ヶ峡

石積み堰堤と、岩肌を流れ落ちる二つの滝が見どころで、巣栗渓谷を代表する景観の一つとされています。お仙ヶ峡の両岸には、柱状節理の岩盤が見られ、四季を通した周囲の葉色と清流と岩肌の微妙な色彩が見どころです。



たけしがわ 武石川の清流

標高2,000mの美ヶ原高原から流れ出る清流は、四季折々で変化する渓谷美を織りなします。せせらぎとどこからともなく聞こえる美しいさえずりに耳を澄ませば、時間が経つのを忘れてしまいます。



やけやまさわいしえんてい 焼山沢石堰堤

昭和26年に完成した練石積み堰堤で、当時の熟練工が自然石を加工し造ったものです。ぴたりと合わさる石と石は、正面から見ると寄せ木細工のようで、横からの景色は弓の弦のように美しく湾曲し、まさに匠の技といえます。